# YOKOHAMA-SXIP 2026 報告書

産官学ネットワークによるレジリエントな社会に向けた持続可能性変革を担う人材育成のためのヨコハマ国際教育プログラム（YOKOHAMA-SXIP）2026 は、8 月 26 日から 9 月 3 日まで、海外協定大学の学生を横浜国立大学に受け入れ、YNU の学生とともに学び、交流し、持続可能な社会について考える「受け入れプログラム」を実施しました。

今年度は、オーストラリアの 2 大学（Griffith University、The University of Newcastle）から 4 名、インドの 4 大学（Anna University、IIT Kanpur、Panjab University、Vellore Institute of Technology）から 14 名の学生を迎え、横浜国立大学（YNU）からも 18 名の学生が参加しました。合計 36 名の学生が、7 つの国際混成チームを編成し、協働グループワークに取り組みました。

今年度は、3 社の企業から、持続可能な社会の構築および気候危機への対応に関する実社会の課題提供など、プログラムにご協力いただきました。富士フイルムビジネスイノベーション株式会社、JFE エンジニアリング株式会社、住友重機械工業株式会社の皆様に、心より感謝申し上げます。

## 海外学生の到着・オリエンテーション

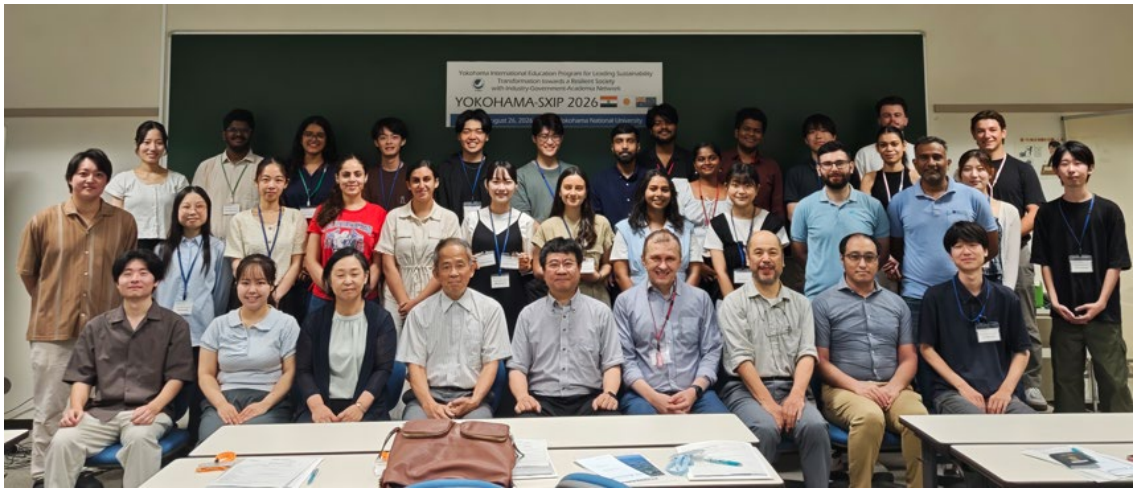
海外からの参加学生は 8 月 25 日に来日しました。YNU の学生は学生寮へのチェックインや周辺環境の案内などをサポートしました。



学生寮にて、インドからの参加学生、YNU の学生と YOKOHAMA-SXIP 統括コーディネーターの鈴木淳史名誉教授

8 月 26 日には、Griffith University の Professor Alexandr Akimov をお迎えし、田名部元成副学長による歓迎挨拶、鈴木淳史総括コーディネーターによるオリエンテーション、長谷川健治教授による「日本文化と歴史」の講義が行われました。さらに、Dr. Swati Arora が

考案した「SXIP ビンゴ」を用いたアイスブレークを実施し、参加者同士の交流を深めました。SXIP ビンゴは、初めて会う参加者同士が自然に言葉を交わし、交流するきっかけとなることを目的としたものです。






SXIP ビンゴ



日本文化講義

## 講義・企業訪問

8 月 27 日には、藤山知加子教授による最初の概論講義「Sustainable Civil Infrastructure toward a Sustainable Society（仮訳：持続可能な社会に向けた持続可能なインフラストラクチャー)」が行われました。午後は、参加学生全員で富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の体験施設「FLOOP」を訪問し、同社のサステナビリティ戦略について学びました。また、施設内ではグループ討論も行われました。



藤山知加子教授による講義



FLOOP でのグループ討論




富士フイルムビジネスイノベーション株式会社

8 月 28 日には、荒木拓人教授による 2 つ目の概論講義「How to build sustainable energy systems? Hydrogen/MCH as an option（仮訳：持続可能なエネルギーシステム構築に向けて：水素／MCH の可能性）」が行われました。午後は、参加者を 2 グループに分けて、JFE エンジニアリング株式会社および住友重機械工業株式会社を訪問し、持続可能な社会に向けた企業の取り組みを学びました。



荒木拓人教授による講義




JFE エンジニアリング株式会社 JBIO

## 文化見学ツアー・講義・学内ラボツアー

8 月 29 日には、YNU の学生が文化見学ツアーを企画・案内しました。各グループは三渓園を訪問した後、三菱みなとみらい技術館、横浜みなと博物館、赤レンガ倉庫、日本郵船氷川丸などを見学しました。

8 月 31 日には、森 信人教授による 3 つ目の講義「Latest Trends in Extreme Climate Projection and Attribution Research（仮訳：極端気候予測・要因分析研究の最前線）がオンラインで行われ、地球温暖化と極端気象の関係について学びました。
午後には、国際混成チームによる第 1 回のグループ討論を行いました。その後、理工系の学生は専門分野ごとに研究室を訪問し、経済学・経営学系の学生は YOKOHAMA-SXIP 社会科学イベント「CFA Institute Research Challenge Interim Presentation」に参加しました。



森信人教授による講義



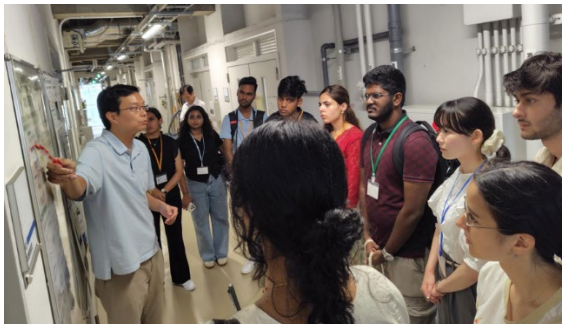
グループワーク



グループ 1



グループ 2A・2B



グループ 3A・3B



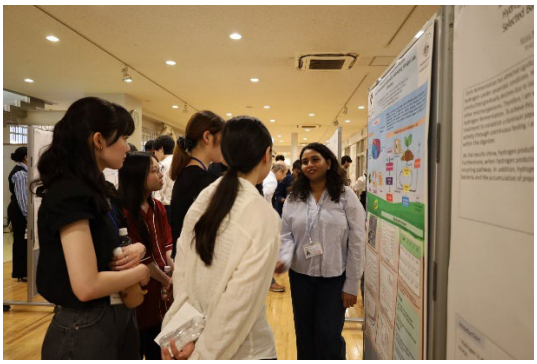
グループ 4A・4B

9 月 1 日は、午前、午後と 2 回に分けてグループワークを行いました。グループワークは、前日の 1 回と合わせて 3 回行いましたが、課題提供企業 2 社から担当者にもオブザーバーとしてご参加いただきました。学生たちは企業から提示された実社会の課題について議論を重ね、持続可能な社会の実現に向けた提案をまとめ、国際シンポジウムでの発表に向けて準備を進めました。

**YNU 国際シンポジウム**

9 月 2 日と 3 日には、YNU 国際シンポジウムが開かれました。
初日の 9 月 2 日には、まず、海外参加学生および YNU の学生によるポスター発表が行われました。多様な研究分野から発表が行われ、エネルギー消費の削減や環境負荷の低減など、持続可能な社会に貢献する研究が多数紹介されました。このポスターセッションには、SXIP の参加学生に加えて、関連分野の研究をしている YNU の学生にも参加を呼びかけ、研究と人的な交流の機会となりました。









続いて、「Water Security and Climate Change: Pathways to a Resilient Future」をテーマとするセッションを実施しました。
本セッションでは、UNICEF 東ティモール事務所の頼田優女様、Monash University Indonesia の Dr. Amitangshu Acharya、Griffith University の Dr. Alexandr Akimov、YNU の Dr. Anuantaeka Takinana の 4 名を講演者としてお迎えし、水資源の安全保障と気候変動、レジリエントな社会の実現に向けた取り組みについて、大変示唆に富む講演をいただきました。



頼田優女様（オンライン）



Dr. Amitangshu Acharya（オンライン）




Dr. Alexandr Akimov




Dr. Anuantaeka Takinana

シンポジウム 2 日目の 9 月 3 日には、学生による成果発表のセッションが行われました。7 つの国際混成チームが、それぞれのグループワークで検討した成果と提案を発表しまし

た。発表後には、協力企業の関係者の皆様から、学生の発表に対する貴重な講評をいただきました。心より御礼申し上げます。
最優秀発表賞には、Panjab University、University of Newcastle、YNU の学生で構成された Group 3B が選ばれ、YNU 国際シンポジウムが終了しました。

## 閉講式

閉講式では Assoc. Prof. Alexandr Akimov から参加学生へのメッセージが贈られた後、参加証が授与されました。最後にプログラム実行委員長の中村一穂准教授から、プログラムを通じて築いた友情を大切にするとともに、安全に帰国するよう激励の言葉が贈られました。
今回の YOKOHAMA-SXIP 2026「受け入れプログラム」を通じて、学生たちは専門分野や国・文化の異なる仲間と協働し、持続可能な社会の実現に向けた課題について学び、考え、議論しました。本プログラムで得た知識と経験、そして国際的なネットワークを今後の学びや活動に生かし、持続可能でレジリエントな社会の実現に貢献していくことが期待されます。









企業からの講評



最優秀発表賞



文部科学省（MEXT）、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）、横浜国立大学校友会のご支援に御礼申し上げます。